

自治会のいいところ
教えてください

～自治会の自慢大会～

令和7年度事例集

美濃加茂市まちづくり課

はじめに

自治会は、住みやすく豊かな地域づくりを実現するため、地域住民によって自主的に結成された自治組織であり、地域の様々な課題解決に取り組みながら、地域住民の安心・安全な環境を築くために重要な役割を果たしています。

しかし、近年、単身世帯の増加や核家族化などにより、自治会を取り巻く環境は大きく変化しています。子どもや高齢者の見守り、地域の防災・防犯など、地域の課題の多様化・複雑化する一方で、未加入者や退会者の増加、役員のなり手不足や高齢化、活動における負担感といった自治会活動の課題も増えています。このような状況の中で、自治会の本来の目的である住みやすく豊かな地域づくりに取り組むことが難しくなってきました。

このような状況を踏まえて、市では、「自治会のあり方検討会議」（令和3年度～令和4年度）、自治会活動における課題解決の活動を集めた「美濃加茂市自治会事例集」の作成（令和5年度～令和7年度）、自治会活動の困りごとや悩みを共有する「自治会座談会」の開催（令和5年度～令和7年度）などの取り組みを行っています。また、その中でいただいた住民の皆様の声をもとに、市から自治会への依頼事項の見直しにも取り組んでいます。

令和6年度からは、頑張っている自治会の取り組みを応援し、その活動を他の自治会に知ってもらうことを目的に「自治会のいいところ教えてください～自治会の自慢大会～」と題して、各自治会の活動事例を募集しています。今回ご応募いただいた7つの自治会の事例をまとめたものを事例集としてご紹介します。どの取り組みも大切な活動であり、他の自治会でも参考になるものです。今後の自治会活動の参考にさせていただき、これからの自治会のあり方を考える一助となれば幸いです。

また、皆さまの自治会の中で取り組んでいる活動事例も、引き続きお寄せいただけますと幸いです。

○募集概要

対 象：市内単位自治会及び複数の自治会の連合組織

募集期間：令和7年12月10日（水）～令和8年1月30日（金）

応募団体：自治会・7団体

掲載事例一覧

| | |
|--|----|
| 1. 【木野自治会】木野自主防災訓練、子ども会・資源保全会合同クリスマス会・・・ | 3 |
| 2. 【駅前自治会】清掃活動～広がる協力の輪～ | 4 |
| 3. 【川合東自治会】総会の見直し～年1回開催と書面議決による効率化～ | 5 |
| 4. 【西町東自治会】さんまが踊っている～楽しく防災ファミリー祭 | 6 |
| 5. 【万場自治会】防災倉庫リニューアル作戦 | 7 |
| 6. 【伊瀬自治会】防犯カメラ設置で実現！不法投棄防止 クリーンなごみ集積所 | 8 |
| 7. 【則光自治会】地域をひとつにする伝統のお祭り | 9 |
| 美濃加茂市長、アドバイザー コメント | 10 |

【活動タイトル】

木野自主防災訓練
子ども会・資源保全会
合同クリスマス会

【自治会名または連合組織名】

木野自治会

活動地区 加茂野地区
世帯数 205世帯

【活動紹介】

木野自治会で行われている「木野自主防災訓練」と「子ども資源保全会合同クリスマス会」について、紹介します。

○木野自主防災訓練

地域の防災意識を高めることを目的に開催しています。昨年に引き続き、2年目の開催になりました。

訓練内容は、消防団第5分団の方の指導のもと、放水訓練、AED訓練、炊き出し訓練を行いました。

訓練当日は、多くの自治会員に参加していただき、消防団の説明を真剣に聞いて体験してもらいました。訓練の最後には、婦人部の皆さんが作る豚汁が振る舞われ、最高に美味しかったです。



○子ども会・資源保全合同クリスマス会

木野自治会の子ども会と資源保全会が合同で、クリスマス会を開催しました。木野公民館を会場にブーケ作りや餅つきなどを行いました。

普段あまり関わることのない大人と子どもが一緒になって行うブーケ作りでは、子どもたちが大人たちに作り方を真剣に聞いて、一生懸命作りました。

餅つきでは、「ヨイショ！」と声を掛けてできた餅をみんなで美味しく食べました。

【イチオシ POINT】

- ・地域の防災意識の向上
- ・大人と子どもたちの世代間交流



【活動タイトル】

清掃活動

～広がる協力の輪～

【自治会名または連合組織名】

駅前自治会

活動地区 加茂野地区

世帯数 86世帯

【活動紹介】

当自治会では清掃活動として「道普請（※）」を春と秋の年2回行なっています。

各班に担当場所が割り振られ、清掃活動を行います。草刈り、ゴミ拾いなど、場所によって内容は変わりますが、早く終わった班は、まだ清掃を続けている班へ自主的に応援に駆けつけてくれます。

また、日頃から長良川鉄道沿線の除草活動や、ごみ集積所周りの清掃を行ってくださる方もいます。小さな清掃活動が、自治会内で広まっていると感じます。



※道普請（みちぶしん）とは

地域住民が協力し、自分たちが生活する道路や水路の清掃、補修、草刈りを自分たちで行う伝統的な共同作業です。生活環境の保全や地域住民のコミュニケーションを目的として行われます。

【イチオシ POINT】

清掃をしていると自治会員以外の方にもご苦労さまと声をかけてくださる方もみえます。



【活動タイトル】

総会の見直し

～年1回開催と書面議決による効率化～

【自治会名または連合組織名】

川合東自治会

※川合東1、2、3自治会の連合組織
活動地区 古井地区
世帯数 137世帯

【活動紹介】

川合東自治会では、自治会規約に総会を年2回開催すると記載しています。元々、地域で行われる祭りに合わせ、秋に総会を開催していましたが、認可地縁団体になったことにより、春の総会の開催も必要となりました。

しかし、春の総会は形式的な部分もあり、また、コロナ禍以降、様々な行事等が中止・自粛となり、自治会員も高齢になったことから、年1回の開催にしたいと考えてました。そこで、市の担当者と何度も相談して、年1回開催とするための解決方法を考えました。

方法としては、春の総会を書面議決に置き換えるというものです。各自治会員が、現在同居されている全員の氏名を記入した委任状を提出し、過半数以上の同意があれば年1回の開催で承認されます。

令和7年春の総会で議題提案し、賛成多数により、令和8年の春の総会は書面議決に置き換えることになりました。

春の総会は書面議決に移行しましたが、秋の総会は引き続き対面での開催し、年に1度は自治会員が顔を合わせて集まれる場を用意し、つながりづくりに務めています。



【ポイント】

- ①自治会長業務の効率化 ⇒資料作成などの経費削減、打ち合わせ日程調整の負担軽減
- ②総会運営の合理化 ⇒総会資料を書面決議で配布、公民館で総会を行わない
- ③委任状の記載事項変更 ⇒全世帯員の氏名が書けるように改訂

【イチオシ POINT】

役員の負担軽減にもつながりました。



【活動タイトル】

さんまが踊っている

～楽しく防災ファミリー祭～

【自治会名または連合組織名】

西町東自治会

活動地区 太田地区

世帯数 129世帯

【活動紹介】

西町東自治会では、毎年秋に「ファミリー祭」を開催しています。自治会のみなさんでさんまを食べながら、楽しく交流する行事です。ファミリー祭は、さんまを味わうだけでなく、防災訓練の一環としての意味も持っています。

当日は、災害時にも活用できる大鍋を使って豚汁を作り、アルファ米を調理して、みんなで食事を楽しまします。また、自治会の備蓄倉庫や西総合体育館の倉庫に保管されているテントやリヤカーなどの備品も実際に使用しています。

自治会では毎年役員が交代するため、ファミリー祭は自治会長をはじめとした役員が災害備蓄品を確認する良い機会にもなっています。会の最初には、自治会内に住む防災士の資格を持つ方の講演会も行いました。

一人暮らしの方から子育て中のご家庭まで、さまざまな世代の方が料理を囲み、和やかな時間を過ごします。ステージでは昭和歌謡を楽しんだり、子どもたちには駄菓子屋さんコーナーを用意したりと、子どもから大人まで楽しめる工夫をしています。また、自治会内の外国籍の住民に自国のバーベキュー料理を考えてもらい、みんなで一緒に作って味わう取り組みも行っています。年齢や国籍の異なる多様な住民が集まる場となっています。

ファミリー祭は自治会の行事ですが、実行にあたってはファミリー祭実行委員会を立ち上げ、自治会役員以外の住民も企画から参加しています。それぞれの得意なことを持ち寄り、自治会みんなで作り上げている行事です。

ファミリー祭の開催は一日ですが、その土台には日頃からの住民同士のつながりがあります。転入してきた住民に声をかけたり、国籍の違いを越えて交流したりと、普段の関係づくりがあるからこそ実現できていると感じています。ファミリー祭の後には、「あの時はありがとうございました」といった言葉が、日常の中で自然に交わされるようになっています。

さんまを囲むことで、自治会のみなさんが温かい気持ちになれる、そんなファミリー祭になっていると思います。



【イチオシ POINT】

- ・地域にどんな人が住んでいるか、よくわかるようになった。
- ・参加する人みんなが役割を持ちながら、楽しむことができた。
- ・防災備蓄品の確認や、炊き出しの経験をすることができた。
- ・地域に住む人の得意なことを知ることができた。
- ・何よりみんなが笑顔になることができた。

【活動タイトル】

防災倉庫 リニューアル作戦

【自治会名または連合組織名】

万場自治会

活動地区 太田地区

世帯数 26世帯

【活動紹介】

当自治会には、物置状態の防災倉庫があり、前々から災害対応できる防災倉庫にしたいと思っていました。自治会長になり、自治会に入っている『メリット』を構築することも今後重要になると考え、この防災倉庫をリニューアルすることで災害時の『共助』『自助』の強化だけでなく、メリット化ができないかと考えました。

★今回の活動のポイントは…

- ①自治会員に自治会のメリットを感じて欲しい。
- ②災害時の準備がマイナスからの立ち上げ。
(防災倉庫が物置状態で片付けから始めなくてはならなかった)
- ③不満の声が上がらないように自治会員の意見を聞き、透明性の高い活動をしたい。

★手順としては…

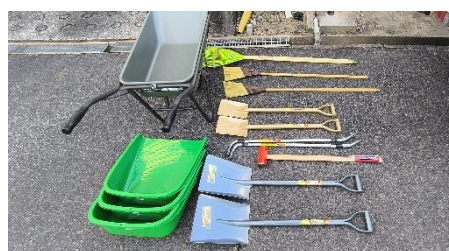
1. 4月の総会で防災倉庫リニューアル許可を得る
2. アンケートを取る ⇒ 必要な物をピックアップ
3. 見積もりを取る
4. 市の自主防災事業補助金(※)を交付してもらうために申請書を出す
5. 申請が下りる ⇒ 実際に購入
6. 書類のため購入品を写真撮影 ⇒ 最終書類を提供
8. 補助金入金 ⇒ 完了!

活動のポイント①…一世帯ずつにウォータータンク、簡易トイレ 100回分を購入。

活動のポイント②…上の手順の他に倉庫の片付けなども同時進行。

活動のポイント③…通信を発行し自治会長の動きや活動が見える化。補助金の活用。

※自主防災事業補助金…自主防災組織または自治会が行う、防災訓練及び防災施設の整備に対して、補助金が交付されます。
防災用品については、費用の2分の1の額が補助されます(実施前に防災安全課に申請が必要です)。



万場自治会通信①
2025年6月末発行・文責 自治会長 熊崎万穂

1

万場防災倉庫についてのアンケート結果①

回答：25世帯中7世帯(自治会長除く)

①世帯用の備蓄品の水についてどちらがいいと思うものに○をしてください。
こちらに決定!

| | |
|---|--|
| <p>2票</p> <p>10年保存水 1.8L×12本 1本 322円</p> | <p>5票</p> <p>7年保存水 2L×12本 1本 248円</p> |
|---|--|

②防災器具として必要と思うものに○をしてください。(いくつでも)

- ・チェンソー1票・発電機1票・ジャッキ1票・一輪車2票・土のう3票
- ・ピシールシート4票・ロー3票・止水板1票・ハンマー3票
- ・スコップ2票・バール4票 ※2票以上を採用。リアカーは予定通り育成会。

他に必要な物やご意見②※補助金が使用不可の物

着替え等に使用する1人用のテント(男女2つ・着替え用2つ)
応急手当セット・ポータブルIH調理器・乾パン
段ボールの囲い・段ボールベット・最低限調理する為の米
軍手・保温アルミシート・使い捨てカイロ・懐中電灯×2票
手袋・ガムテープ・調理に必要な物・段ボール
モバイルバッテリー・バケツ・簡易浄水器・ほうき・ちりとろ
ゴミ袋・ヘルメット・マスク ※水と同様にポリタンクも用意。

【イチオシ POINT】

一家に一つ、防災ウォータータンク20L、簡易トイレ 100回分備えたこと。
大きく邪魔になるが備えておきたいものが防災倉庫に設置されている!
物だけでなく、安心感という心の面もポイント。

【活動タイトル】

防犯カメラ設置で実現！
不法投棄防止
クリーンなごみ集積所

【自治会名または連合組織名】

伊瀬自治会

活動地区 蜂屋地区
世帯数 94世帯

【活動紹介】

当自治会では、ごみの不法投棄や分別ルールが守られないことに悩んでいました。ごみ集積所には防犯カメラを1台設置していましたが、死角が多く、特に不燃物集積エリアを十分にカバーできていない状況でした。

そこで、市のごみ集積所設置等補助金（※）を活用し、新たに防犯カメラを2台設置しました。可燃物から不燃物、駐車場まで、集積所全体を撮影できるようにすることで、死角をなくしました。

設置及び運用にあたっては、個人のプライバシー保護に十分配慮し、適切な管理運用を目的とした「防犯カメラ管理運用規程」を作成しました。この運用規程には、個人情報の保護、映像の閲覧権限の制限、管理方法、警察等関係機関との連携方法などを明記しています。

この結果、防犯カメラ設置後は、不法投棄や分別ルールが守られないごみがほとんどなくなり、ごみ分別の対応に要していた自治会長の負担も軽減されました。



※ごみ集積所設置等補助金

ごみ集積所の設置、改修、移設等必要な経費に対し、補助金を支給する。

- ・新設または移設 経費の1/2 上限10万円
- ・改修 経費の1/2 上限5万円
- ・監視カメラ等不法投棄対策 経費の1/2 上限10万円

【イチオシ POINT】

- ・不法投棄や分別のルールが守られるようになった。
- ・市の補助金を活用することで、自治会の費用負担を抑えつつ、適切な防犯カメラの設置が実現できた。

【活動タイトル】

地域をひとつにする 伝統のお祭り

【自治会名または連合組織名】

則光自治会

活動地区 下米田地区

世帯数 72世帯

【活動紹介】

則光自治会では、年間をとおして多くの行事を開催しています。

5年ごと当番が回ってくる諏訪神社春の大祭、7年ごとの御開帳、新年会、自治会夏祭り、お墓掃除、九万九千日法要、もちつき大会、ほかにも氏神さま八幡神社の祭典が3度あり、もち投げも行われます。

中でも特に地域全体で盛り上がる行事は、毎年4月に行う諏訪神社春の大祭です。このお祭りは、下米田町、川辺町、八百津町の1市2町にある10地区

(13自治会)の総氏神で行う行事で、古くから「お諏訪様」として親しまれてきました。

当番が回ってくると、事前準備や当日運営に加え、

お囃子の奉納が重要な役割となります。当自治会では、小学校低学年から中学生までの子どもたちが、この日のために年2回の練習を重ね、お祭りの前年からは練習回数を増やして本番に臨みます。

令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や規模縮小を余儀なくされてきましたが、当自治会が当番を務めた令和7年には、6年ぶりに完全復活することができました。みんなで力を合わせて引く山車や子ども相撲の歓声、一生懸命練習してきたお囃子が境内に響き渡り、とても賑やかなお祭りになりました。

行事の準備は大変ですが、やり遂げた後の達成感を地域住民同士で分かち合えることは、何事にも代えがたい喜びです。そしてこれらの積み重ねが地域住民同士の交流を深め、いざという時の助け合いの精神を育み、地域の安全・安心を支える大切な役割も担っています。

則光自治会は、伝統のあるお祭りを守りながら、皆さんの「このまちに住んでよかった」という笑顔のために、これからも活動を続けてまいります。



お祭り前夜の夜囃子の様子

【イチオシ POINT】

年間をとおして多彩な行事を開催しており、子どもから大人まで、家族単位で参加できる行事もあります。これらの行事が、自治会員同士の交流の場となっており、地域全体の連帯感を育んでいます。

自治会員の皆様には、日頃から地域のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

ご応募いただいた7つの事例には、どれもそれぞれの地域の特徴があり、あらためて自治会にはたくさんの「いいところ」があると感じました。お祭りや防災、美化活動、多世代交流など、どの取り組みからも、地域を大切に思う気持ちと、活動の中における楽しさや温かさを大切にされている様子が伝わってきます。

市民の皆さんの中には課題を感じながらも、『自分たちの自治会では難しい』『何から始めていいかわからない』と思っておられる方もいらっしゃるかと思います。こちらの事例集に掲載されている取り組みも、最初から形が整っていたわけではなく、小さな一歩や試行錯誤の積み重ねの中から創りあげられてきたものばかりです。本事例集により、地域のことを大切に考えていただける皆様にとって、今一度、『どのような自治会にしていくのか。そのために、何ができるのか』そのようなことを、私たちと一緒に考えていただく、きっかけとなることを願っています。それぞれの自治会活動の充実が、市民の毎日の暮らしや幸せを、着実に豊かにしていきます。皆様お一人おひとりの小さな一歩が、地域を、そして美濃加茂市の未来を確かに動かしていきます



美濃加茂市長
藤井 浩人

各自治会の取り組みに対して、賞とアドバイザーからのコメントをお送りします。

木野自治会

多世代学び合い賞

多世代交流は、地域で暮らす満足度を上げるうえで非常に有効です。合同クリスマス会は、大人がもつ知恵やスキルを子どもたちに伝える、素晴らしい機会となったと感じます。

駅前自治会

道普請で支え合い賞

道普請を軸とした活動を通じて、班の枠を越えた住民同士の自発的な協力体制が見事に構築されています。共助の精神が地域に文化として根付き定着している、とてもいい事例です。

川合東自治会

減らして深める 交流好循環賞

認可地縁団体化に伴う負担増に対し、春を書面議決、秋を対面と役割を分けた合理的な判断をされています。事務効率化と住民の交流を両立させた持続可能な運営の好事例といえます。

西町東自治会

秋刀魚でつながる 防災賞

地域で良い企画をつくるためには「かけあわせ」がポイントとなります。「ファミリー祭」の中で防災訓練を取り入れることは、見事なかけあわせとなり相乗効果が生まれている事例です。

万場自治会

自分ごと化 モデル賞

自治会本来の役割は「共助による助け合い」であり、福祉や防災が中心となりますが、防災は他人事になりがちです。防災用品を世帯ごとに用意したことで、見事に自分ごと化した素晴らしい事例です。

伊瀬自治会

見える工夫で クリーン環境賞

市には、自治会活動を応援する補助金が整備されていますが、それを知らずに活用できていない自治会も多いです。この事例は、補助金活用によって役員の負担軽減と環境美化を両立した良い事例です。

則光自治会

このまちが好き！ で賞

地域の伝統行事は、子どもたちの故郷への愛着を育む重要な取り組みです。多世代で取り組むことが、行事の枠を超えて「いざという時の助け合い」を支える地域の土台形成につながる好事例です。

アドバイザー
北村 隆幸



○問い合わせ先

- | | | | |
|---------|-----------------|---------|---------|
| ・まちづくり課 | 25-2111 (内線362) | ・加茂野連絡所 | 25-2493 |
| ・太田連絡所 | 26-2628 | ・伊深連絡所 | 29-1395 |
| ・古井連絡所 | 25-2058 | ・三和連絡所 | 29-1001 |
| ・山之上連絡所 | 25-2739 | ・下米田連絡所 | 25-2714 |
| ・蜂屋連絡所 | 25-2901 | | |

発行 令和 8 年 3 月

美濃加茂市市民協働部 まちづくり課
〒505-8606 美濃加茂市太田町3431-1
電話：0574-25-2111(内線362)
FAX：0574-25-3917
メール：machi@city.minokamo.lg.jp